

評論文における「読み」を深める授業 —学習実態に応じた授業展開の工夫（学習実態 標準）—

- 1 科目名 現代文B
- 2 単元名 評論2
- 3 教材名 今井むつみ「言葉と世界」 ワークシート3種類
- 4 単元の内容

単元の目標 と評価規準 ・評価方法	<p>①単元の目標</p> <p>ア 文章を批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりしようとする。 (関心・意欲・態度)</p> <p>イ 文章を批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。 (読む能力)</p> <p>ウ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てること。 (知識・理解)</p> <p>②単元の目標設定の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の生徒は学習に対する苦手意識が強く、特に評論文になると「何が言いたいのか分からない。」と言って、学習自体を放棄してしまうことがある。そのような中で、これまでは本文の内容理解に重点を置いた授業を展開してきた。しかし、生徒の様子を観察すると、内容理解に関しては概ね良好な様子が見られてきたが、評論文の内容を一般化し、内容理解を通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりしている様子が少ないことが分かった。文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることは、生徒の人間観、社会観、自然観などを確立するために大切なことである。従って、それらのことを深めたり、広げたりすることができれば、自分自身の生き方をより良くすることにつながると考えた。 ・本教材は、問題提起から始まり、問題提起で終わる評論文である。その構造を利用することで、本文の内容だけではなく、実社会や実体験とつなげて「言葉と世界」についてより身近に考えることができる教材であると考えた。そのため、生徒が教材に興味をもち、筆者の主張に触れることで、自分自身のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする能力を育成することに主眼を置いた。また、文章を読むことは、単に文章から一方的に知識や情報を受け取るという受け身の活動ではないため、グループ学習を通して、他者の意見に触れて、自分の意見をより深めたり、考えたりできるように目標を設定した。 ・本クラスは、学習に前向きに取り組む生徒がほとんどであり、積極的に発言や記述をする。一方で、意欲はあるが学習内容の定着が低い生徒も多いのが実情である。学習の定着に差があるため、配慮が必要であることから学習実態を「標準」と設定し、グループ学習を通して学力差を補う配慮をしている。 <p>③中心となる学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容読解は、主に全体で行う。その際に、発問を多くすることで、教師と生徒が双方向対話的に授業を進めていくことになる。本文中の根拠を明確にして発言させることで、発問に答えていくうちに自然と内容読解ができる一方で、双方向対話的に授業が進んでいくことで私語につながりやすいという点があるため留意が必要である。 ・内容を一般化し、言葉や社会、人間について自分の考えを深めたり発展させたりするためにグループ学習を取り入れる。グループ学習で考える内容は、本文の内容と関連した問題を出題し、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにできるように工夫した。 <p>④言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自のワークシートに本文中の語句の意味を国語辞書で調べてまとめさせる。本校生徒は電子辞書を使用していないため、紙媒体の国語辞書で調べさせる。語彙力を育成することと内容読解をするためのヒントとすることを目標とする。また漢字練習のワークシートを利用して、基礎的な漢字の読み書きができるようにする。どちらについても現代文Bの指導事項オに「語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにする」とあるため、授業内で効果的に指導する必要がある。しかし、漢字の読み書きを含めた語彙を豊かにすることに関しては、授業内だけで補うことは困難であるため、自学自習できるようなワークシートを取り入れて
-------------------------	---

いる。

- ・本単元では、グループ学習を取り入れている。今回のグループ学習の目的は、評論文の内容を一般化し、実社会や実体験とつなげて「言葉と世界」についてより身近に考え、他者の意見に触れて、自分の考えを深めたり、広げたりすることである。問題に対して、グループ内で協力して、正解を導き出すことは大切なことと考える。しかし、今回の活動では、他者とともに考えることを通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることに主眼を置いているため、話し合いの過程と活発な意見交流を最重視し、グループ内で正解を導くことができなくても良いこととした。グループの人数は4人を基本とする。さらに、グループのメンバーの決め方には、人間関係、学力差、リーダーシップの有無、学習意欲の有無など多様な視点に関する工夫が必要である。今回は、人間関係を最優先し、グループ内での意見交流が活発に行われるように配慮した。

⑤評価

	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心・意欲・態度	① 本文に興味をもち、読解をしようとしている。 ② グループの話し合いに積極的に参加し、問題に対する正解を協力して導き出そうとしている。	観察（机間指導） 点検（発言・ワークシートの提出） 生徒の自己評価	・目標達成のための項目を具体的に生徒に伝える。 ・グループ学習に積極的に参加するように促す。
読む能力	① 根拠を明確にして、本文の内容を理解している。 ② 筆者の主張を理解し、学習を通して、自分自身のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	観察（机間指導） 点検（発言・ワークシートの提出）	・本文の根拠を指摘し、筆者の考えを理解するように助言する。 ・グループ内で意見交流をして、他の生徒の発言を参考にするように助言する。
知識・理解	① 本文中で使用されている基本的な漢字の読み書きができ、語句の意味や表現を理解している。	観察（机間指導） 点検（発言・ワークシートの提出） 定期考査	・辞書で調べさせたり、他の生徒に教えてもらったりして理解するように助言する。

成果と課題

- ① 評論文に苦手意識をもつ生徒も積極的に授業に参加していた。
- ② グループのメンバーを事前に生徒自身に決めさせたことにより、責任をもって学習に取り組む生徒が多くいるように感じた。グループ学習において、グループのメンバーは学習を大きく左右するものであるため、今後も決め方に工夫が必要であると感じた。
- ③ 今回のグループ学習では、「正解を導き出すこと」が最優先ではなく、「自分の考えを深めたり、広げたりするための活発な意見交流や話し合いの過程」を最優先することを生徒に伝えていたため、安心して発言をしている生徒が多く、目標達成のために他者と協力して活動する生徒が多かった。
- ④ グループ学習では、一部の生徒がいつも話し合いに参加できなかったり、話し合いが行き詰まったりすることがあるが、その時に授業者自身がどのような手立てをするかより具体的に考えておく必要性を感じた。
- ⑤ 本単元を授業で取り扱うに当たり、教科書の本文だけでなく、筆者が執筆した原文（出典）でもある『ことばと思考』を詳しく読んで教材研究を行った。その成果として、内容読解及び生徒の考えを深めたり広げたりするために、多様な発問をすることができた。また、授業者自身が筆者の考えを深く理解することにより、多様な考え方や疑問を持つ多くの生徒に筆者の考えを教えることができた。評論文に限らず、小説や随想、古文や漢文などにわたる多くの教材を授業で取り扱うにあたり、原文（出典）や関連文献や参考文献を多く読み込んで教材研究を行い、その上で授業研究をしていく大切さを知ることができた。

アドバイス

及び
留意点

- ① グループ学習は、「何を目的に行うか」によって様々な手法がある。今回の単元では、正解を導き出すことではなく、活発な意見交流などをするを目的に行ったため、グループ内の人間関係を重視してグループのメンバーを決めたが、単元内や授業内での目的に応じてその他のことを重視してグループを作ることも大切である。また、「何を目的に行うか」を生徒に適切に理解させないまま行うグループ学習は、その効果を最大限発揮できないため、注意が必要である。さらに、グループ内の役割を事前に決めておくことやルールを明確にすることも効果的なグループ学習を行う上で大切なことである。
- ② 教材研究において、原文（出典）を読むことは、非常に有効である。特に、評論文において

	は、筆者の主張を読み取るうえで、原文（出典）には様々なヒントが隠されている。評論文が苦手な理由として「何が言いたいのか分からない。」という生徒が多いため、生徒が理解しやすいような具体例や身近な体験と結び付けて理解させるためには、授業者の豊富な知識と情報、それらを結び付ける思考のネットワークが必要であると考え。
小中学校との系統性	①（中学・1年・C 読むこと） オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。 ②（中学・2年・C 読むこと） エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。 ③（中学・3年・C 読むこと） エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○本文全体の構成と概略を把握し、語句の意味調べをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文1行目について考える。【ア】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・「窓」という言葉に着目して考えさせる。 ・本文を意味段落に分け、教師による範読を聞く。【ア】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・本文中の難読漢字には読み仮名を付けるように指導する。 ・本文中の語句の意味調べをする。【オ】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・独自のワークシートと紙媒体の国語辞書を配付して調べさせる。 ・各語句の意味は、本文中での意味を調べるように指導する。 	<p>本文の内容に興味・関心をもち、考えることができる。【関】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） 点検（発言）</p> <p>本文中の語句の意味調べをし、語句の意味や用法を的確に理解している。【知】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） 点検（ワークシートの提出） 定期考査</p>	<p>机間指導の際に、生徒の様子を観察し、個別に指導をする。</p> <p>↓</p> <p>語句の意味調べが完成しているかどうか確認する。</p>
2	○第1段落を読解し、「言葉を通して世界を見る」ことについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・第1段落を読み、読解を行う。【ア】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・言い換えと対比構造に注目させる。 ・原文（出典）から多様な具体例を提示し、理解を促進させる。 ①ヒンバ語（青と緑を区別しない）を紹介する。 ②日本語とフランス語の「黄色」の認識の違いを紹介する。 ・まとめの問題にグループで取り組み、日本語による世界の切り分け方が絶対ではなく、言語による世界の切り分け方は多様にあることを理解する。【ア・ウ】 問 色の名前を3つしかもたない言語は「白・赤・紫・青・緑・黄・茶・灰・黒・ピンク・オレンジ」の11色を3つグループに分けてそれぞれの名前で呼ぶ。そのグループの分け方を考えなさい。 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習では正解を導き出すことが目的ではなく、自分の考えを深めたり、広げたりすることが目的であることを伝え、そのために活発な意見交流を行うように指導する。 	<p>教材に興味をもち、自分の考えをもって積極的に学習に取り組もうとしている。【関】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） 点検（発言）</p> <p>本文中の語句の意味や漢字の読みが理解でき、筆者の主張を根拠を明確にして、読み取ることができる。【知】【読】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） 点検（発言）</p> <p>自分自身のものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。【読】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） 点検（発言）</p>	<p>指名発言をさせる中で、細かくヒントを出していき、本文から根拠を抜き出させる。他の生徒の発言を参考にするように助言する。行き詰まっているグループには助言をする。</p> <p>↓</p> <p>机間指導にて記述内容を確認する。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・問題は原文（出典）を参考に出題する。 ・各グループには11色のカードを1セット配付する。 		
3	<p>○第2段落を読解し、「言葉によって世界を切り分ける」ことについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第2段落を読み、読解を行う。【ア】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・具体例を通して、筆者の主張を一般化するように指導する。 ・原文（出典）から具体例を提示し、理解を促進させる。 <ol style="list-style-type: none"> ①日本語と英語での「走る」という動詞の使い分けを紹介する。 ・グループで「言葉」の役割について話し合い、言葉は世界をカテゴリーに分け、整理していることを理解する。【ア・ウ】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習では正解を導き出すことが目的ではなく、自分の考えを深めたり、広げたりすることが目的であることを伝え、そのために活発な意見交流を行うように指導する。 ・最初に次の導入問題に取り組みさせる。 <p>問 次の「投げる」「○○高校」「バナナ」「アンパンマン」の4語は『カテゴリー』と『固有名詞』のどちらに所属するか答えなさい。</p> ・各グループには、話し合いのためのミニホワイトボードを1つずつ配布する。 	<p>教材に興味をもち、自分の考えをもって積極的に学習に取り組もうとしている。【関】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） 点検（発言）</p> <p>本文中の語句の意味や漢字の読みが理解でき、筆者の主張を根拠を明確にして、読み取ることができる。【知】【読】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） 点検（発言・記述内容）</p> <p>自分自身のものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。【読】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） 点検（発言）</p>	<p>指名発言をさせる中で、細かくヒントを出していき、本文から根拠を抜き出させる。他の生徒の発言を参考にするように助言する。行き詰まっているグループには助言をする。</p> <p>↓</p> <p>机間指導にて記述内容を確認する。</p>
4	<p>○第3段落を読解し、言葉による空間の位置関係の表現の仕方を読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第3段落を読み、読解を行う。【ア】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の提示する具体例を通して、内容理解するように指導する。 ・言語化されている内容を図示して理解するように指導する。 ・まとめ問題にグループで取り組み、空間の位置関係の表現方法も言語によって異なることを理解する。【ア・ウ】 問 「ボールが木の前にある。」と言われた時の日本語とハウザ語での見方を図示しなさい。 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習では正解を導き出すことが目的ではなく、自分の考えを深めたり、広げたりすることが目的であることを伝え、そのために活発な意見交流を行うように指導する。 ・各グループには、話し合いのためのミニホワイトボードを1つずつ配布する。 	<p>教材に興味をもち、自分の考えをもって積極的に学習に取り組もうとしている。【関】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） 点検（発言）</p> <p>本文中の語句の意味や漢字の読みが理解でき、筆者の主張を根拠を明確にして、読み取ることができる。【知】【読】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） 点検（発言・記述内容）</p> <p>自分自身のものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。【読】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） 点検（発言）</p>	<p>指名発言をさせる中で、細かくヒントを出していき、本文から根拠を抜き出させる。他の生徒の発言を参考にするように助言する。行き詰まっているグループには助言をする。</p> <p>↓</p> <p>机間指導にて記述内容を確認する。</p>
	<p>○第4段落を読み、評</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第4段落を読み、評論の主題を考える。【ア・ウ】 	<p>教材に興味をもち、自分の考えをもって</p>	<p>指名発言をさせる中で、細かくヒン</p>

5 (本時)	論の主題について考える。	<p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1段落の問題提起に立ち戻り、評論の主題について考えるように指導する。 ・原文(出典)から「赤ちゃんと大人の比較」に関する多様な具体例を提示し、理解を促進させる。 <ul style="list-style-type: none"> ①音のカテゴリー知覚について 〔r〕と〔l〕の音の区別 ②アナロジー(類推)問題について 「錠:鍵=ペンキ缶:△」 「文字が書かれた紙:鉛筆=ペンキ缶:△」のそれぞれの△に入る言葉は、刷毛か、缶切りか。 ・上記②について、正解が導き出される理由を根拠を明確にしてグループで考える。【ウ】 <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習では正解を導き出すことが目的ではなく、自分の考えを深めたり、広げたりすることが目的であることを伝え、そのために活発な意見交流を行うように指導する。 ・各グループには、話し合いのためのミニホワイトボードを1セットずつ配布する。 	<p>積極的に学習に取り組もうとしている。【関】</p> <p>↓</p> <p>観察(机間指導) 点検(発言)</p> <p>本文中の語句の意味や漢字の読みを理解し、筆者の主張を根拠を明確にして、考えることができる。【知】【読】</p> <p>↓</p> <p>観察(机間指導) 点検(発言・記述内容)</p> <p>自分自身のものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。【読】</p> <p>↓</p> <p>観察(机間指導) 点検(発言)</p>	<p>トを出していく。他の生徒の発言を参考にするように助言する。行き詰まっているグループには助言をする。</p>
-----------	--------------	---	--	--

6 第5時の学習指導案

本時の位置	5時間目(全5時間)		
本時の学習目標	<p>ア 教材に興味をもち、自分の考えをもって積極的に学習に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)</p> <p>イ 本文の読解を通して、評論の主題を理解し、自分自身のものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。(読む能力)</p>		
事前の準備	<p>①グループ学習をするために、メンバーと活動時間等を決めておく。</p> <p>②原文(出典)である『ことばと思考』を読み、言葉と認識、子どもの思考の発達について知る。</p> <p>③本文と関連のある具体例を考える。</p>		
導入 5分	<p>学習内容</p> <p>□前時までの復習と本時の目標の確認</p>	<p>学習活動</p> <p>①前時までの内容をノートで確認する。</p> <p>②本時の目標を理解し、第4段落の音読をする。</p>	<p>指導上の留意点及び評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの内容に関する発問をし、本時の目標の確認につなげる。 ・本時の目標を板書し、第4段落を代表生徒に音読させる。 <p>本時の目標：評論の主題を考え、「言葉」と「世界」の関連性について考える。</p>
展開 ① 12分	<p>□全体で評論の主題を考える。</p>	<p>③第4段落「私たちが『見ている』世界は言葉が切り分ける世界そのものなのだろうか。」について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評論の主題を考えるために展開①②では、原文(出典)から「赤ちゃんと大人の比較」に関する具体例を提示し、理解を促進する。 ・音のカテゴリーの〔r〕と〔l〕の区別についての具体例を提示する。 <p>目標Aに対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] 音のカテゴリーに関する具体例を聞き、自分の考えをもって学習している。</p> <p>[方法] 点検(発言、記述の確認) [状況Cの生徒への手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見を参考に、自分の考えをもつように助言する。

			<p>目標イに対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] 音のカテゴリーに関する具体例を聞き、他者の意見に触れて、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。</p> <p>[方法] 点検 (発言、記述の確認)</p> <p>[状況Cの生徒への手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒントを与えて考えさせる。
展開② 23分	<input type="checkbox"/> グループで評論の主題を考える。	<p>④ 第4段落「言葉が切り分ける世界は、私たちが『見ている』世界とは別のものなのだろうか。」について考える。</p> <p>⑤ 3～4人のグループ形態にして、アナロジー問題に取り組む。(8分)</p> <p>⑦ 各グループの代表者が発表する。(6分)</p> <p>⑧ 本文の内容と関連させてまとめる。(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな具体例を示して評論の主題を考えさせる。 ・アナロジー(類推)問題を出題する。 「錠：鍵＝ペンキ缶：△」 「文字が書かれた紙：鉛筆＝ペンキ缶：△」 のそれぞれの△に入る言葉は、刷毛か缶切りか。について考えさせ、そのように考える理由も話し合わせる。 ・問題を出題した後にグループ形態にさせる。 ・各グループには、話し合いのためのミニホワイトボードを1セットずつ配布する。 <p>目標アに対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] 自分の考えをもって、グループの話し合いに参加している。</p> <p>[方法] 観察(机間指導)、点検(発言)</p> <p>[状況Cの生徒への手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見を参考に、自分の考えをもつように助言する。 ・話し合いの中で代表者を決めさせる。 ・発表するグループは指定する。 <p>目標イに対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] グループ学習と全体交流を通して、他者の意見に触れて、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。</p> <p>[方法] 観察(机間指導) 点検(発言)</p> <p>[状況Cの生徒への手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒントを与えて考えさせる。
まとめ 10分	<input type="checkbox"/> 本時のまとめと本時の振り返りをする。	<p>⑨ 本時のまとめを記述する。</p> <p>⑩ 振り返りシートを記入し、提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者による本時のまとめをする。 ・振り返りシートを配付し、記入後に回収する。